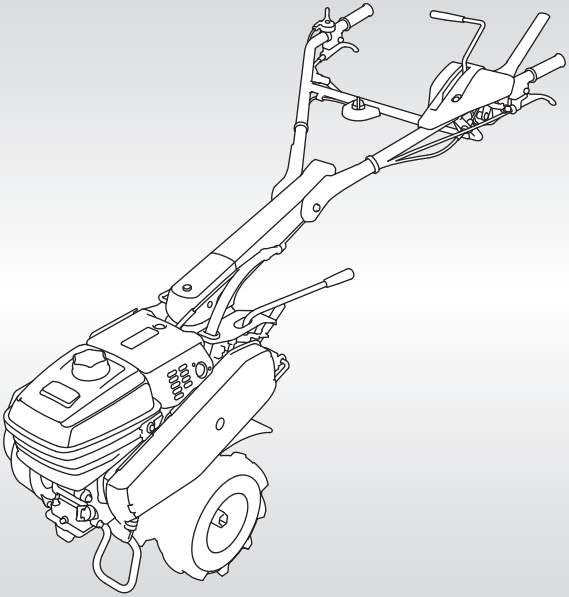
HONDA

耕うん機

F530

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

一般公道でのトレーラー走行はできません。
（本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。）
夜間作業はできません。
（本機は作業灯が装備されていません。）

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

本製品は、（一社）日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合したエンジンを搭載しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう.....4
安全ラベル.....9

サービスと保証について.....11

各部の名称と取扱いをおぼえましょう.....12
エンジンスイッチ.....14
燃料コックレバー.....14
チョークレバー.....15
エンジン回転調整レバー.....15
主クラッチレバー.....16
クラッチ切レバー.....16
手元クラッチ切レバー.....17
サイドクラッチレバー.....17
駐車ブレーキレバー.....18
始動グリップ.....18
変速レバー.....19
ハンドル高さ調整レバー.....19
ハンドル回転レバー.....20
PTO 軸（動力取出し軸）.....24
ヒッチボックス（作業機取付け部）.....25
車輪取付けピン.....26
スタンド（兼フロントガード）.....26

作業前に点検・調整しましょう.....27
作業前の点検.....27
ガソリンの点検.....28
エンジンオイルの点検.....30
エアクリーナ（空気清浄器）の点検.....31
タイヤ空気圧の点検.....32
泥水カバーの点検・清掃.....33

エンジンのかけかた.....34

運転操作のしかた 38
主変速レバー、副変速レバー 38
主クラッチレバー 41
手元クラッチ切レバー 41
クラッチ切レバー 42
エンジン回転調整レバー 42
サイドクラッチレバー 43
PTO 軸（動力取出し軸）の使いかた 44

エンジンのとめかた 45
緊急停止の場合 45
通常停止の方法 45

定期手入れを行いましょう 48
定期点検 48

点検・整備のしかた 49
エンジンオイルの交換 49
変速機オイルの点検 51
エアクリーナ（空気清浄器）の清掃・交換 52
点火プラグの点検・調整・交換 54
燃料ろ過カップ・フィルタの清掃 56
エンジン回転調整ケーブルの調整 57
サイドクラッチケーブルの調整 58
駐車ブレーキケーブルの調整 59

長期間使用しないときの手入れ 61

故障のときは 63

主要諸元 64

同梱部品の組付けかた 66

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

- 作業を始める前に
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、きちんと身体にあったものを着用してください。
  - 裸足や爪先が開いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
  - 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
  - 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
  - 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
  - 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。

  「車軸と連動し駆動する推奨作業機」耕うん爪の回転直径は：

  LH タイプ : 36 cm 以下 ※　LBH タイプ : 42 cm 以下 ※

※：平成 22 年度安全鑑定基準に基づく

警告

- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。
- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンをかける場合には換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

- 作業中

- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向（等高線方向）に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分におとし、周囲に注意してサイドクラッチを使用しないで、ハンドル操作で行ってください。
  - ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

警告

- 駐車ブレーキを “ ロック ” （ON）したまま走行しないでください。ブレーキが故障する原因となり、事故につながるおそれがあります。
- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - ・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、車輪を装着し、十分な強度のアユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。また、ロータを装着した状態ではアユミ板を使用しないでください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- 爪（ロータ）は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - ・作業中に爪を点検するときは、エンジンスイッチを “停止” にし、エンジンを必ず停止してから行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
  - ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンスイッチを “停止” にし、エンジンを必ず停止し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル（給油限界位置）を超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータリ作業時は爪の回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

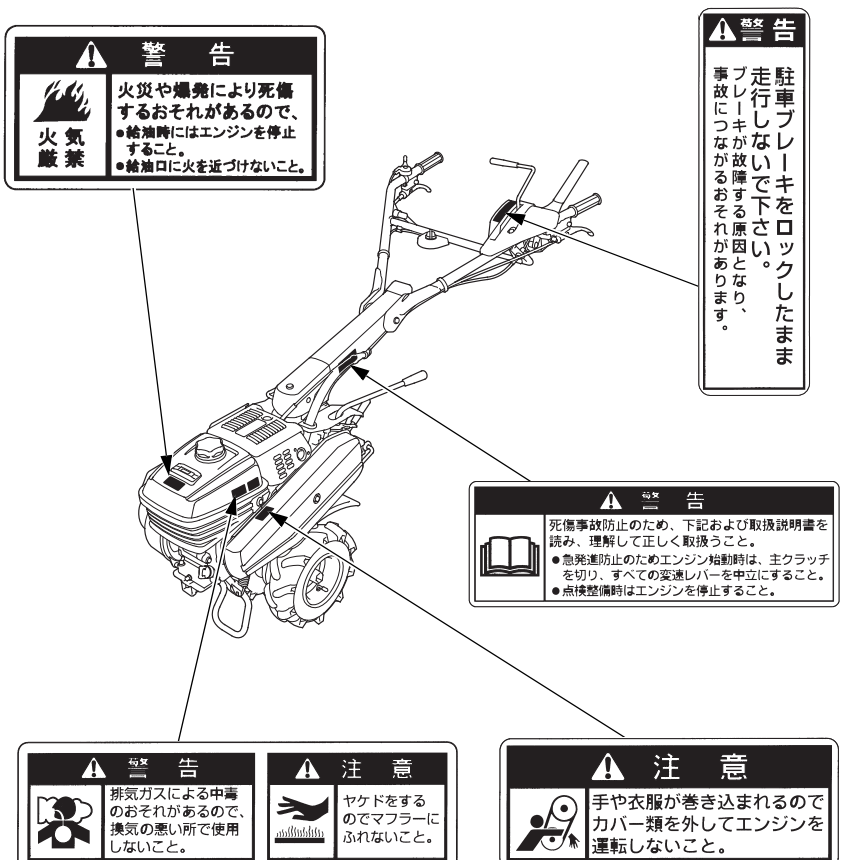
- 作業が終わったら
- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ（消音器）は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

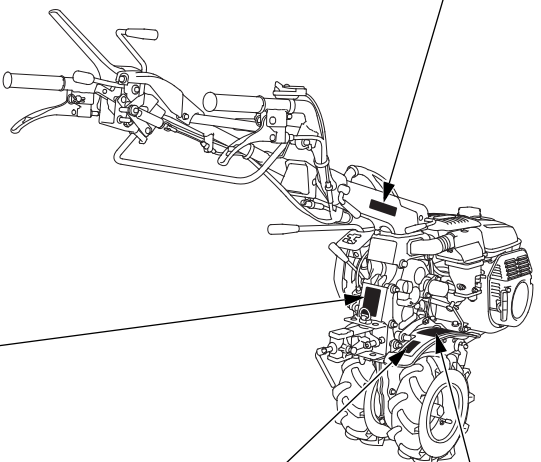
警告

- 積み降ろしおよび運搬時
- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
  - ・使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのあるタイヤ幅以上の幅があるものを使用してください。
  - ・アユミ板の傾斜角度が 15 度以下になるような長さのものを使用してください。（目安として荷台の高さの 4 倍以上の長さ）
  - ・アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
  - ・車軸に耕うん作業機を装着しているときは、タイヤに付け替えてください。
  - ・ロータ装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
  - ・積み込みは前進で、降ろすときは後進で行ってください。
    アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
  - ・本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを切ったり、サイドクラッチを操作したりしないでください。
  - ・積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速の状態にしてください。また、本機の駐車ブレーキもかけてください。
  - ・燃料コックは “閉” にして運搬してください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

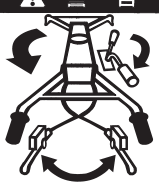




⚠ 警　告

- 回転中のPTO軸にふれるとケガをすることがあるので、近づかないこと。
- PTO軸を使用しない時は必ずカバーを付けること。

⚠ 警　告



死傷事故防止のため、ハンドルを180°回転した場合は、
- サイドクラッチを左右つけ替えること。
- チェンジレバーを反転させること。

⚠ 危　険



回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。

⚠ 警　告



後進時、ハンドルがはね上り爪にふれると、死傷するおそれがあるので、
- 後方に人や障害物がないことを確認すること。
- 車速を最低にしてエンジン回転数を下げること。
- ハンドルをしっかりささえること。
- クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れる様にすること。

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。

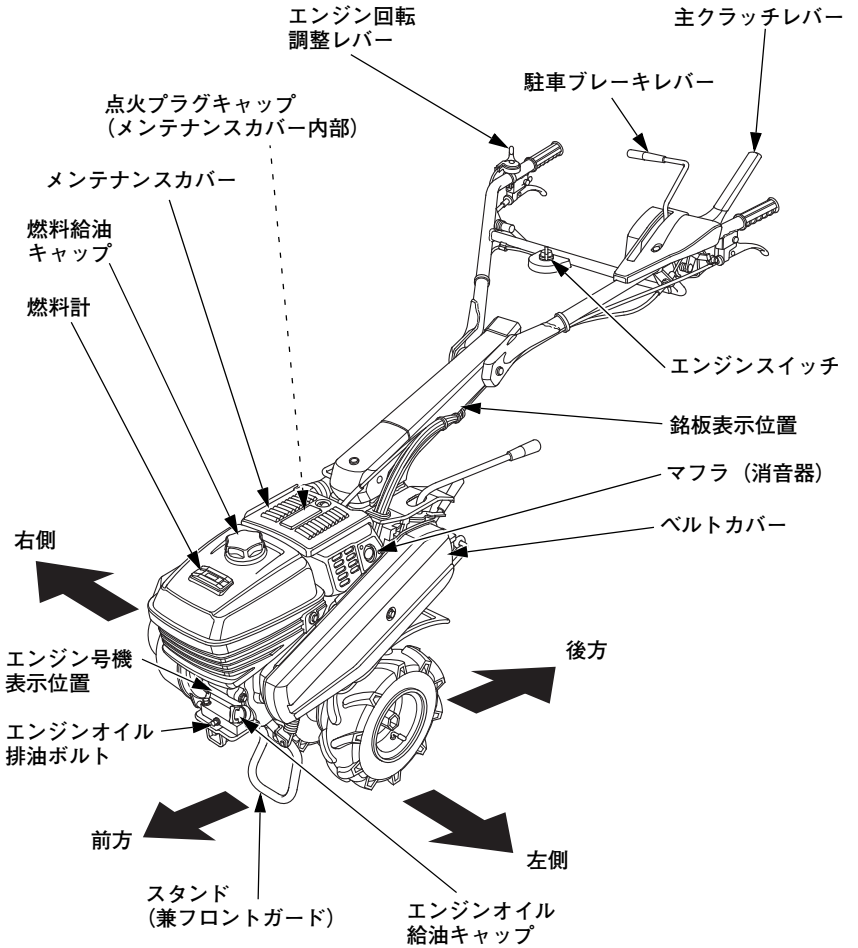
銘板



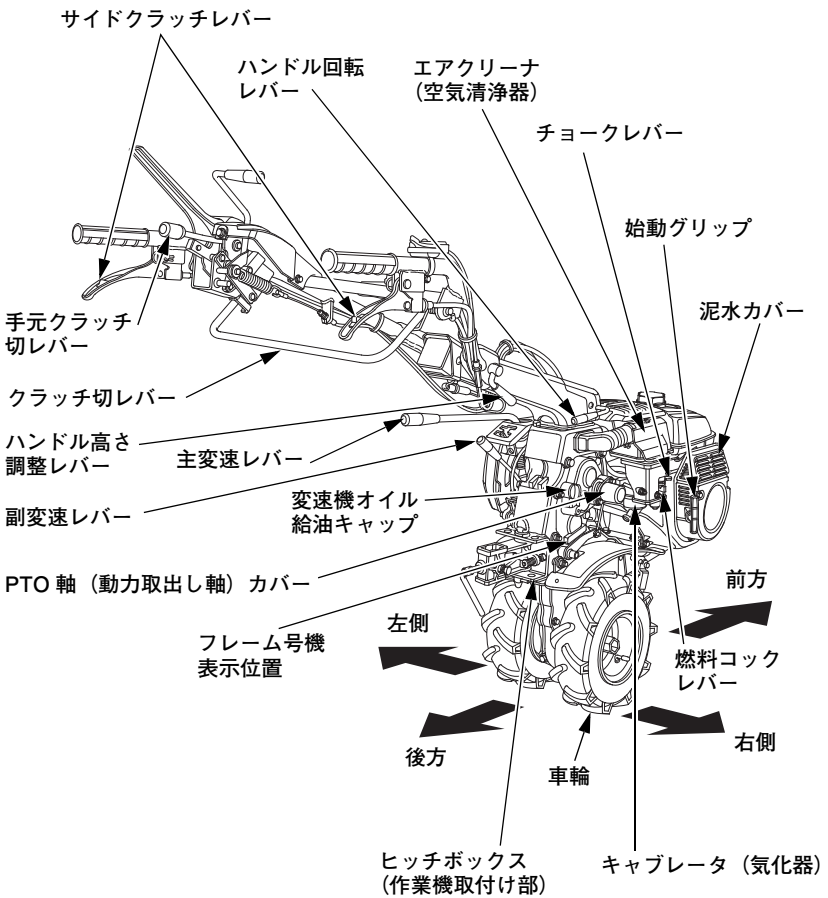
※ フレーム号機および銘板の表示位置は
12 ～ 13 頁をご覧ください。
(参考：左の銘板は F530K-LBH タイプの物です)

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

各部の名称と取扱いをおぼえましょう



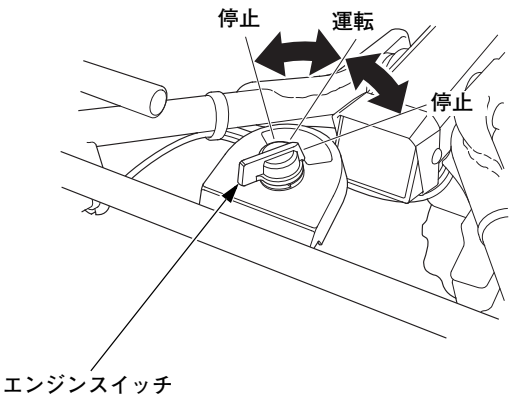
※ 矢印の方向指示はハンドル正転時の方向です。ハンドルを反転した場合は方向が逆になります。



※ 矢印の方向指示はハンドル正転時の方向です。ハンドルを反転した場合は方向が逆になります。

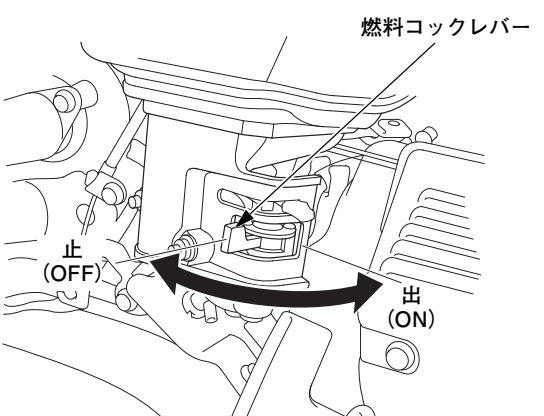
エンジンスイッチ

エンジンスイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



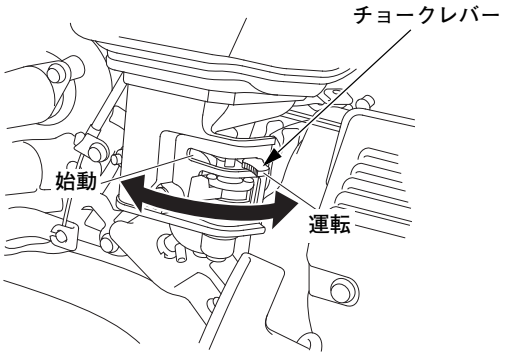
燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレータまでの燃料通路を開閉するときに操作します。操作は確実に“止”(OFF)、“出”(ON)の位置に合わせてください。



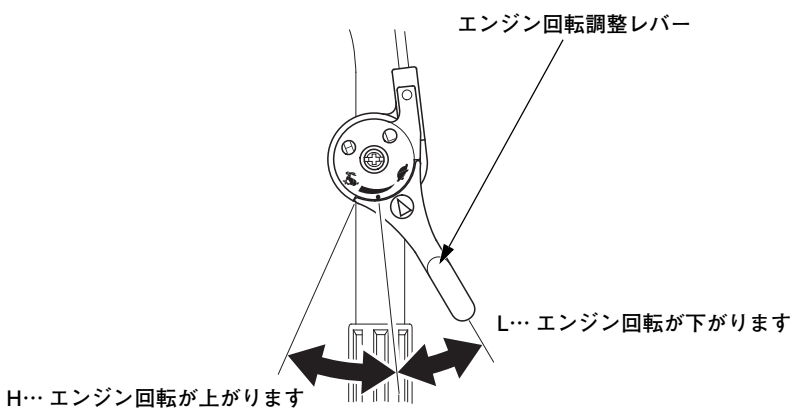
チョークレバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



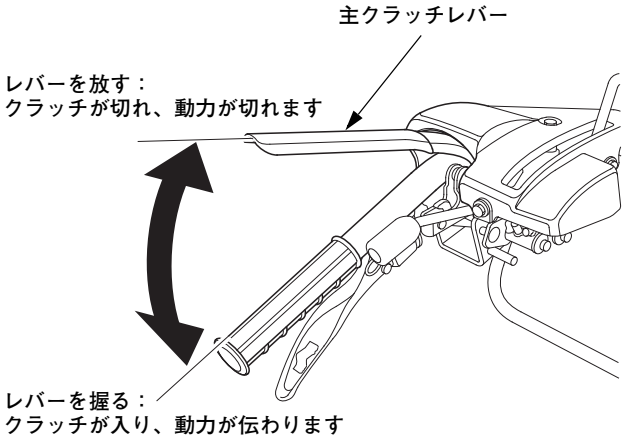
エンジン回転調整レバー

エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



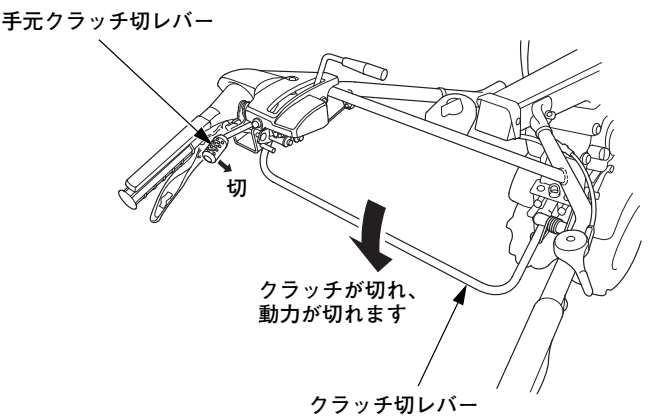
主クラッチレバー

主クラッチは、車輪および動力取出し軸への動力を断接する装置です。
主クラッチレバーを握ると動力が伝わり、放すと動力が切れます。



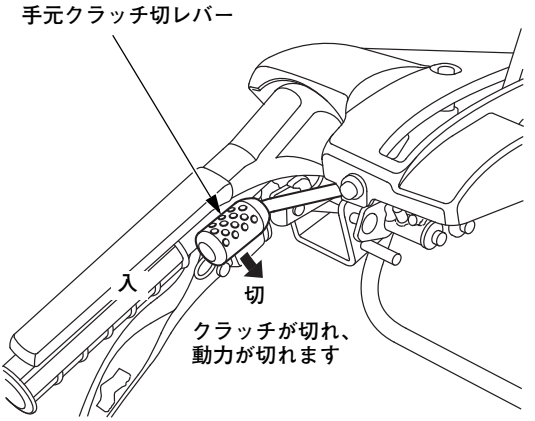
クラッチ切レバー

クラッチ切レバーは動力を切るときに操作します。
クラッチ切レバーを操作すると手元クラッチ切レバーは “ **切** ” の位置になります。



手元クラッチ切レバー

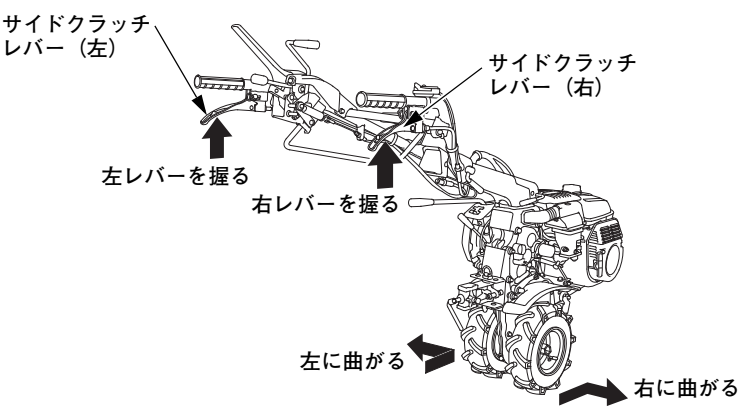
手元クラッチ切レバーは手元で動力を切るときに操作します。



サイドクラッチレバー

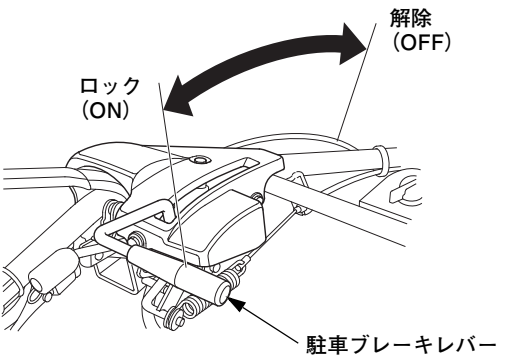
方向を変えるときに使います。
レバーを握ると握った方向に曲ります。

- 右レバーを握る … 右に曲ります。
- 左レバーを握る … 左に曲ります。



駐車ブレーキレバー

“ロック”（ON）の位置にするとブレーキが効きます。
“解除”（OFF）の位置にするとブレーキが解除されます。

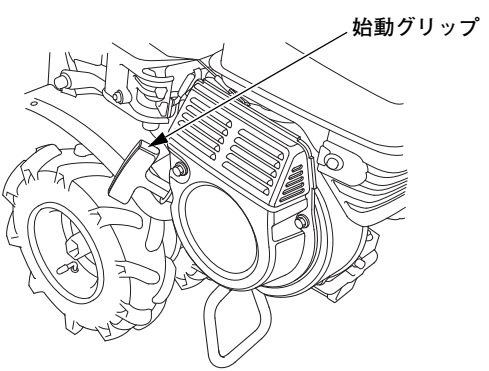


⚠警告

駐車ブレーキを“ロック”（ON）したまま走行しないでください。ブレーキが故障する原因となり、事故につながるおそれがあります。

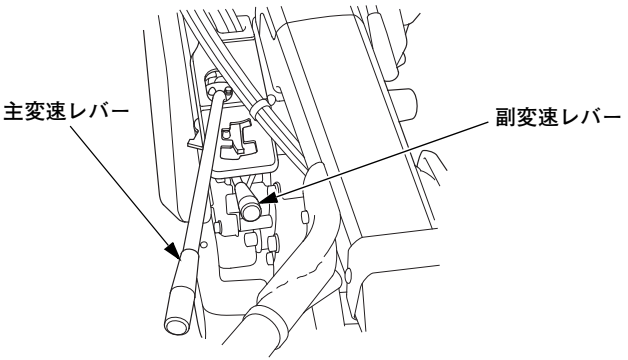
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



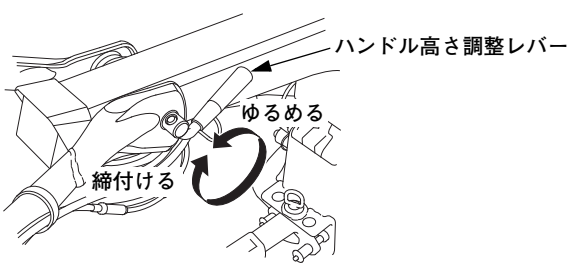
変速レバー

進行方向や本機の速度を変えるときに操作します。
変速は前進３段、後進１段ですが、副変速レバーを“低”“高”に切りかえることによって前進６段、後進２段となります。



ハンドル高さ調整レバー

ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるレバーです。
高さは任意に変えられます。
《角度調整のしかた》
調整レバーを回してゆるめ、ハンドルを任意の高さに合わせてレバーを固定します。



取扱いのポイント

調整後はレバーを十分に締付けてください。

ハンドル回転レバー

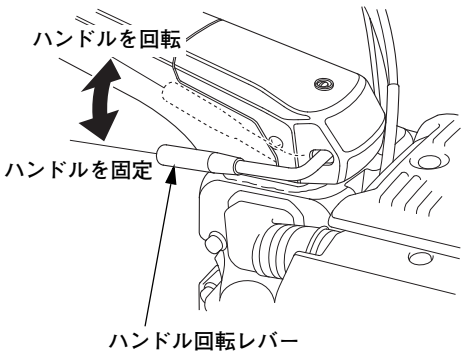
ハンドルの角度調整、反転（ハンドル逆位置）時に操作します。

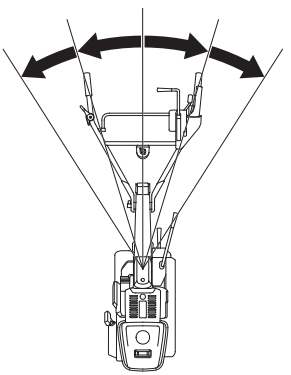
《角度調整のしかた》

ハンドルが回転できる位置までハンドル回転レバーを軽く引き上げて行います。

ハンドルを動かして “カチリ” と音のする位置でハンドル回転レバーを締付けます。

角度は左右それぞれ２段階に選ぶことができます。





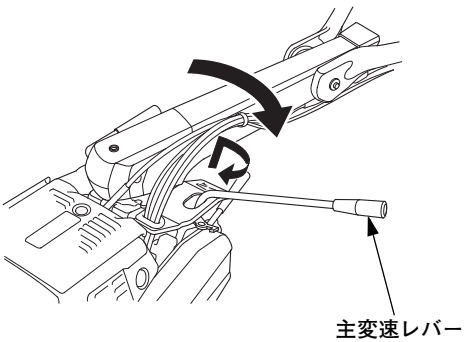
⚠注意

ハンドルの角度調整は、必ずエンジンを停止して行ってください。

取扱いのポイント

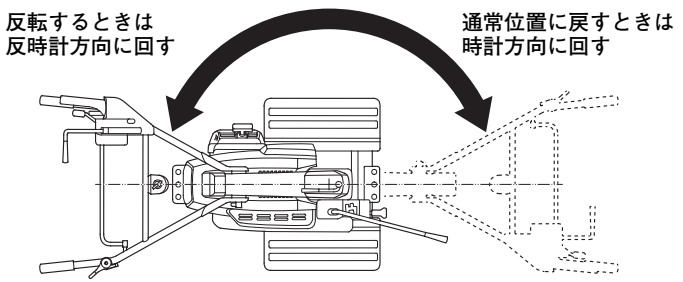
ハンドル角度調整後はハンドル回転レバーを確実に締付け固定してください。

ハンドルを左に角度調整したときは、主変速レバーも左へ角度を変えてください。主変速レバーを引き上げ、時計方向に回して固定します。



《反転（ハンドル逆位置）のしかた》

1. ハンドル回転レバーを軽く引き上げ、ワイヤ類がひっかからないように注意しながらハンドルを反時計方向に回します。
2. 機体の中心にハンドルを合わせ、“カチリ”と音のする位置でハンドル回転レバーを締付けます。



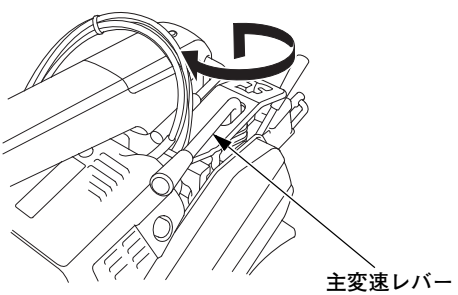
⚠注意

ハンドルの反転は、必ずエンジンを停止して行ってください。

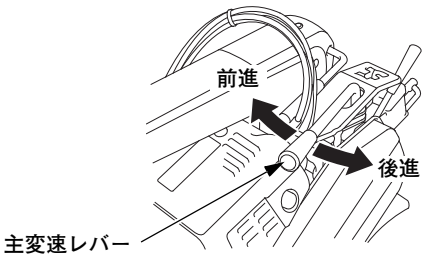
取扱いのポイント

ハンドル反転後はハンドル回転レバーを確実に締付け固定してください。

3. 主変速レバーを持ち上げて時計方向にまわします。
（副変速レバーの向きは変わりません。）



4. ハンドル反転後、各レバー、ピン類の取付けが完全であるか確認します。
   ハンドルを反転すると主変速レバーでの変速は前進、後進のみとなります。

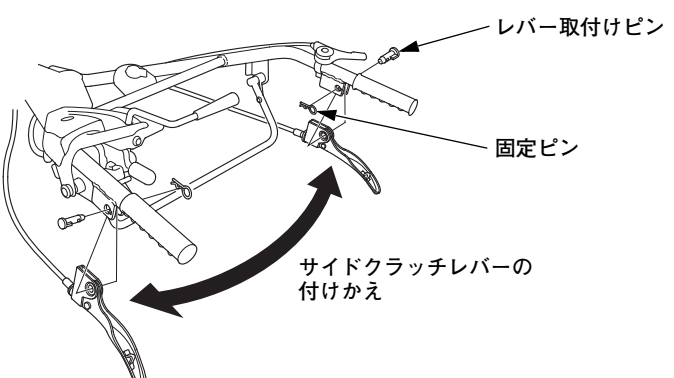




取扱いのポイント

主変速レバーの反転時には、3 速以上へのチェンジができない構造となっていますので、無理に操作しないでください。

5. ハンドルを反転するとサイドクラッチレバーが左右反対になります。固定ピンとレバー取付けピンを外し、左右のサイドクラッチレバーを付けかえます。

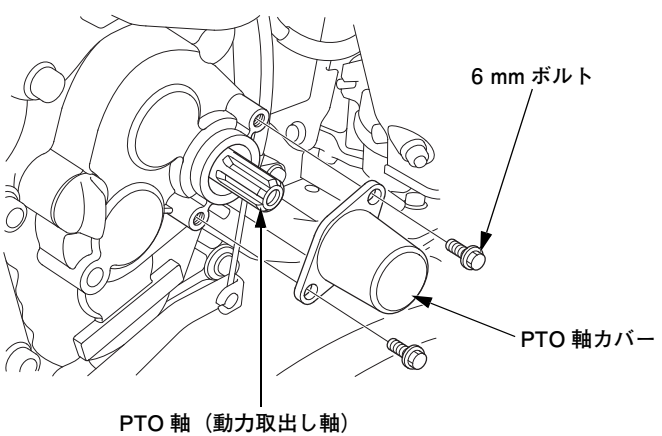


⚠注意
- ハンドル反転時、サイドクラッチレバーを左右付けかえてあるかどうか必ず確認してください。
  付けかえないと旋回方向が反対になり危険です。
- ハンドルを元に戻したときには、必ずサイドクラッチレバー、変速レバーを元に戻してください。

PTO 軸（動力取出し軸）

PTO 軸は定置作業、動噴、草刈、中耕ロータリ等に使います。
動力の取出しは 6 mm ボルト２本を外し、PTO 軸カバーを取外して行います。

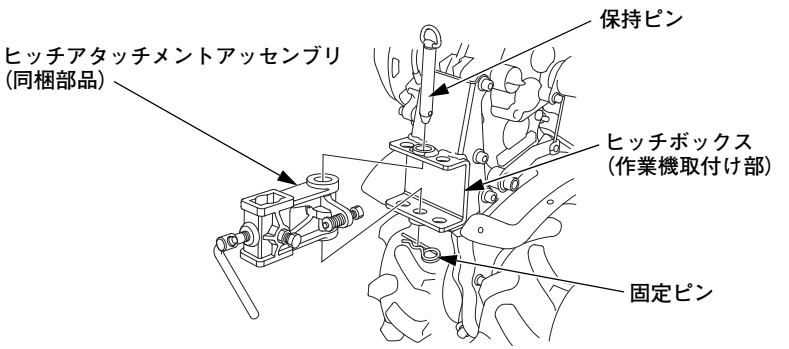
⚠警告
PTO 軸（動力取出し軸）カバーは PTO 軸を使わないとき常に取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きついたりし、ケガをするおそれがあります。



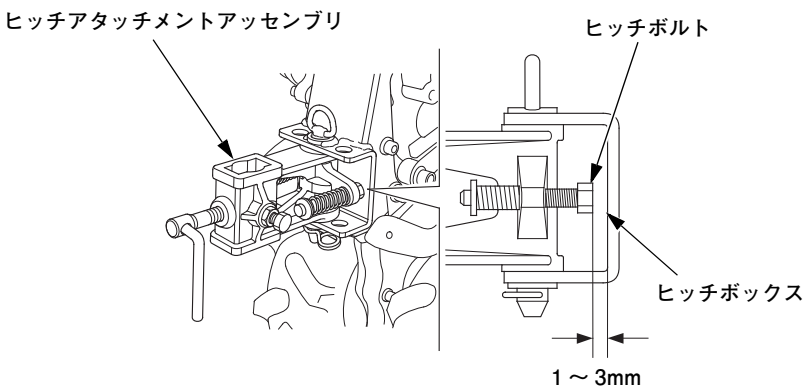
副変速レバーを操作することにより２通りの回転速度が選べます。
低速：885.6 rpm
高速：1,776 rpm

ヒッチボックス（作業機取付け部）

作業機を取付けるところです。
取付けは、本機のヒッチアタッチメント保持ピンを抜き、ヒッチアタッチメントアッセンブリを取付けます。保持ピンは固定ピンで固定します。



ヒッチアタッチメントアッセンブリ取付け位置の標準は、ヒッチボックスとヒッチボルト頭部とのすき間を左右１～３mmになるようにヒッチボルトで調整します。



車輪取付けピン

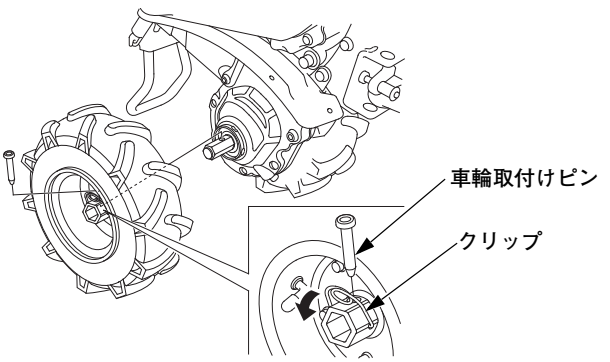
車輪の取付け、取外し、車輪幅の調整（LBH タイプ）を行うときに取扱います。

《調整のしかた》（LBH タイプ）

クリップ、車輪取付けピンを外し、任意の穴へさしかえます。
取付けは左右対称の位置にしてください。

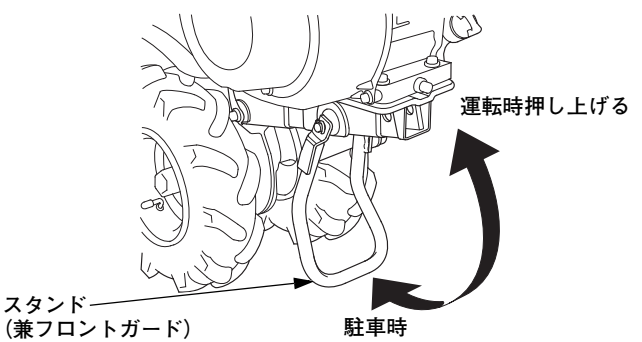
⚠注意

車輪を取外すときは、2 人で行ってください。本機が転倒し、思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。



スタンド（兼フロントガード）

駐車時はスタンドとして、運転時はフロントガードとして使用するときに操作します。



作業前に点検・調整しましょう

⚠警告
点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機周り ・・・・・・・・・・・・・・・・・燃料の量（29 頁参照）、オイルの量（30 頁参照）は規定量入っていますか。
  ・燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  ・エンジン周りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
  ・泥水カバー内に草や泥などの詰まりはないですか。（33 頁参照）
- レバー類の作動 ・・・・・・・・・・・・・レバーの遊び量（57 ～ 60 頁参照）は規定どおりですか。
  ・引っかかりはないですか。
  ・スムーズに作動しますか。
- タイヤの空気圧 ・・・・・・・・・・・・・タイヤの空気圧は適正ですか。（32 頁参照）
- 各部の締付け ・・・・・・・・・・・・・・ハンドル高さ調整／回転レバーにゆるみ、がたはないですか。
  ・ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類 ・・・・・・・・・・・・被覆の破れ、切れはないですか。
  ・配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止 ・・・・・・・・・・エンジンを始動し、異音はないですか。（始動手順は 34 ～ 37 頁参照）
  ・エンジンスイッチで確実に停止しますか。（停止手順は 45 ～ 47 頁参照）
- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

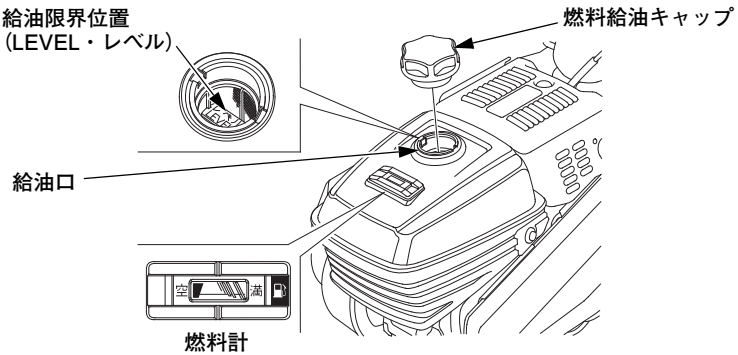
ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

平坦な場所で本機のスタンドを接地状態にし、燃料計で燃料の量を点検します。
少ない場合は補給してください。



補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。

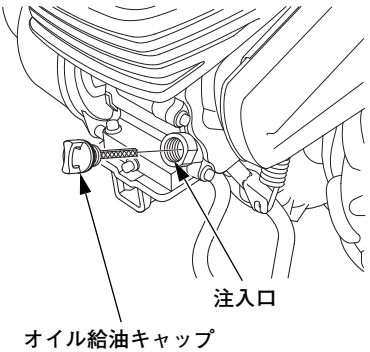
取扱いのポイント

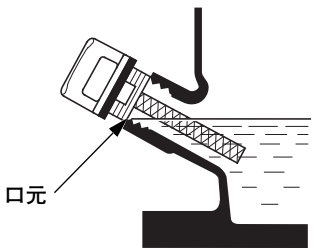
- **必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。**
- **軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。**
- **ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。**
  (ガソリンの抜きかたは 61 頁参照)

エンジンオイルの点検

点検

エンジンを水平（49 頁参照）にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

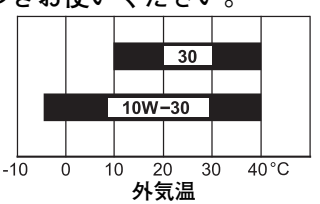




補給

少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換は 49、50 頁参照）補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



推奨オイル　Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）、または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

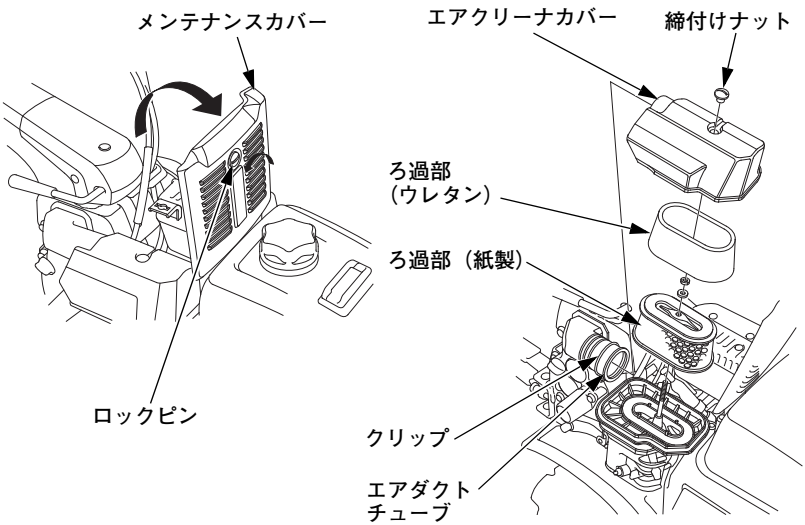
エンジンオイル量：　0.58 L

取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナ（空気清浄器）の点検

1. ロックピンを 90° 回しロックを解除して、メンテナンスカバーを開けます。
2. クリップを移動してエアクリーナカバーからエアダクトチューブを取外します。カバーやエアダクトチューブを損傷させないように注意してください。
3. 締付けナット、エアクリーナカバーを取外し、ろ過部（ウレタン・紙製）が汚れていないか点検します。
   汚れている場合は清掃してください。（清掃方法は 52、53 頁参照）



取扱いのポイント

- **エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナカバーやろ過部（ウレタン）を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

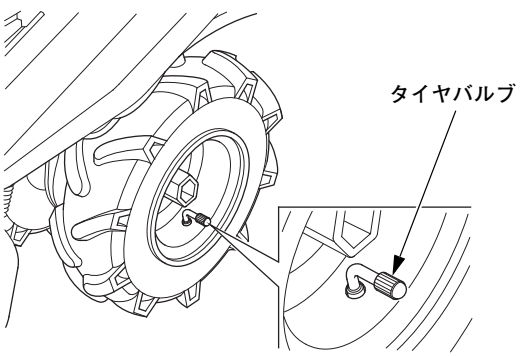
タイヤ空気圧の点検

点検
空気圧が正規か確認してください。空気圧が高過ぎるとけん引力が不足し、低過ぎるとタイヤの寿命を短かくします。
空気圧が正規でない場合は必ず正規の空気圧にしてください。

調整
バルブキャップを取外し、タイヤバルブより空気を注入、または抜いて調整します。

タイヤサイズ： 3.50 － 5（LH タイプ）
4.00 － 7（LBH タイプ）

標準空気圧：118 kPa (1.2 kgf/cm^2)

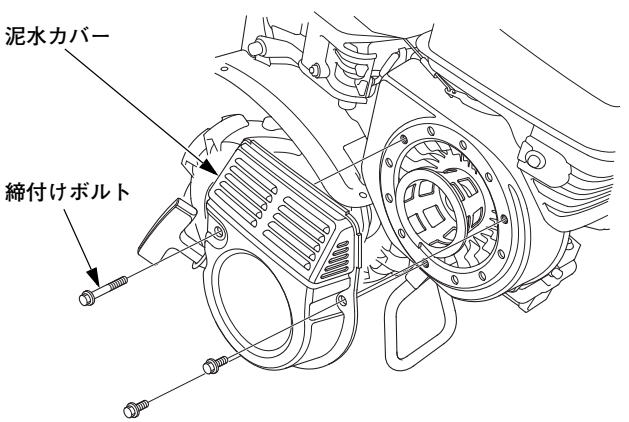


泥水カバーの点検・清掃

点検
泥水カバー上部より目視にて点検します。草や土が入っていたり、泥水が入った場合は清掃してください。

清掃
泥水カバー内に草や土が入っていると冷却風の不足やオーバーヒートの原因となる場合がありますので必ず清掃を行ってください。

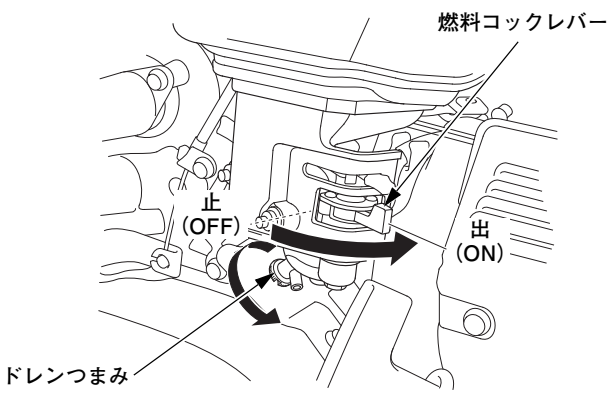
《清掃のしかた》
1. 締付けボルト３本を外し泥水カバーを取外します。
2. カバー内の草や泥を取除きます。
3. 清掃後、元の位置にセットし、締付けボルトを確実に締付けてください。



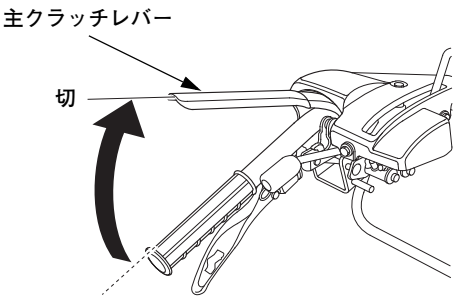
エンジンのかけかた

⚠警告
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチレバーが “切”、変速レバーが “中立” になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

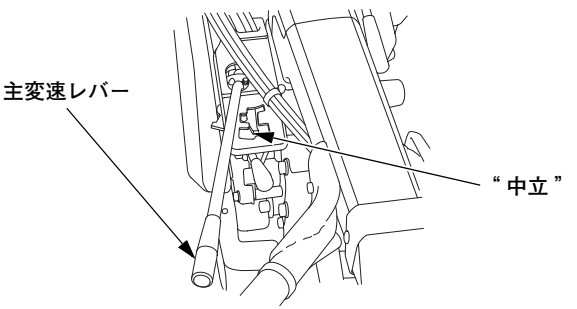
1. 燃料コックレバーを “出” (ON) にします。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。



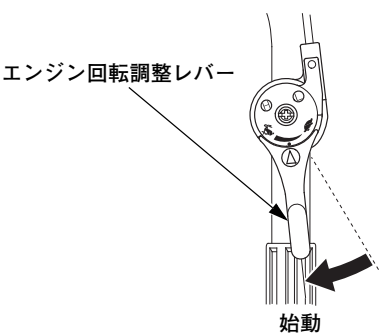
2. 主クラッチレバーが “**切**” になっていることを確認します。



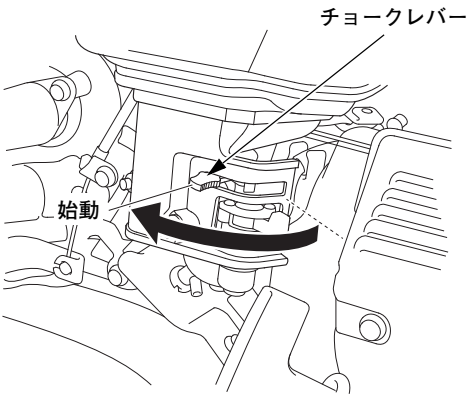
3. 主変速レバーが “**中立**” になっていることを確認します。



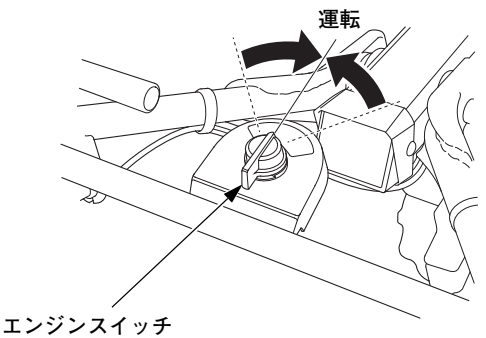
4. エンジン回転調整レバーを “**始動**” の位置に合わせます。



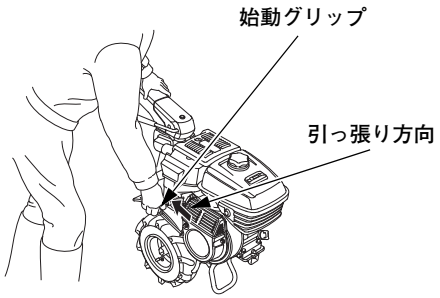
5. 寒いときやエンジンがかかりにくい場合には、チョークレバーを “**始動**” の位置にします。



6. エンジンスイッチを “**運転**” の位置にします。



7. ハンドルコラムを左手でおさえ、右手で始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。始動グリップは手を添えて静かに戻してください。



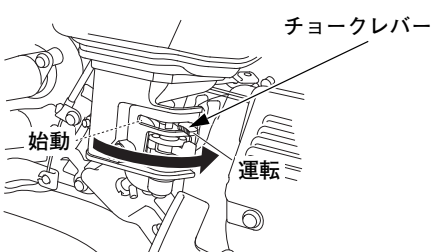
⚠注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- **始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。**
- **運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。**

8. エンジンが始動します。
9. エンジンが始動したら、2～3分間暖機運転を行います。
チョークレバーを“**始動**”にしたときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に“**運転**”の方向に戻します。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず “安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう” の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

⚠警告

駐車ブレーキを “ロック”（ON）したまま走行しないでください。ブレーキが故障する原因となり、事故につながるおそれがあります。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

変速

主変速レバー、副変速レバー

変速表の適応作業を目安に作業の状況に合せ適切な変速位置を選びます。（39、40 頁参照）速度が速すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

変速の要領

1) 主変速レバー、副変速レバーは、必ず主クラッチを切ってから操作します。
2) 主変速レバーが作動しにくいときにはいったんクラッチを入れた後、クラッチを切りもう一度操作します。
3) 後進の場合、特に足元や後方に十分注意し低速で運転してください。

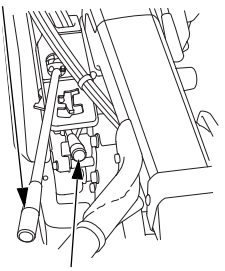
⚠警告

後進時、ハンドルがはね上り爪（ロータ）にふれると死傷するおそれがあるので後進するときは次の指示に従ってください。
・後方に人や障害物がないことを確認してください。
・エンジン回転を下げてください。
・ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
・クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れるようにしてください。

変速表

（LH タイプ）

主変速レバー



副変速レバー

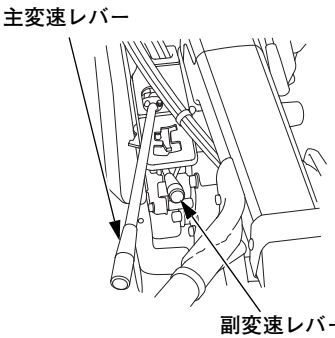
（LH タイプ）



副変速位置	主変速位置	車軸回転数（rpm）	適 応 作 業
低速	1	12.3	中耕ロータリ
	3	33.1	スキ耕
	4	46.0	ロータ耕起
	後進 1	12.9	中耕ロータリ
高速	2	24.7	中耕ロータリ
	5	66.4	培土、カルチ
	6	92.2	ロータ砕土
	後進 2	25.8	モアー、ロータリ

エンジン回転数 3,600 rpm 時

（LBH タイプ）



（LBH タイプ）



副変速位置	主変速位置	車軸回転数（rpm）	適 応 作 業
低速	1	12.3	中耕ロータリ
	3	33.1	スキ耕
	4	39.6	ロータ耕起
	後進 1	12.9	中耕ロータリ
高速	2	24.7	中耕ロータリ
	5	66.4	培土、カルチ
	6	79.5	ロータ砕土
	後進 2	25.8	モアー、ロータリ

エンジン回転数 3,600 rpm 時

運転

⚠注意

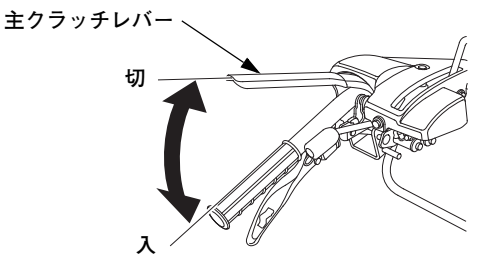
本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

主クラッチレバー

主クラッチレバーの操作は、静か（スムーズ）に行ってください。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

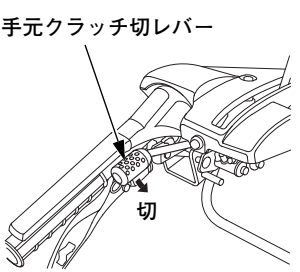
主クラッチの機能

レバーを握る … クラッチ **“入”** … 動力が伝わります。
レバーを放す … クラッチ **“切”** … 動力が切れます。



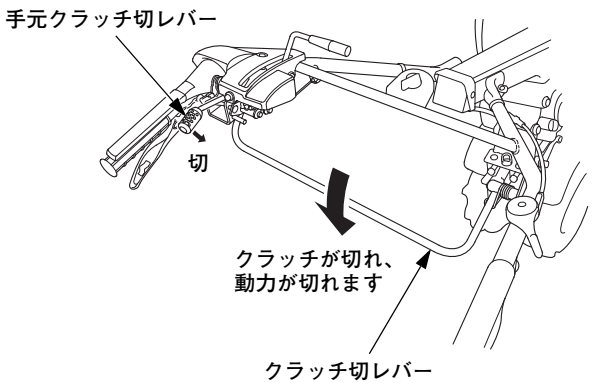
手元クラッチ切レバー

レバーを切側に押し下げる … クラッチ **“切”** … 動力が切れます。
主クラッチレバーを握った状態で、手元クラッチレバーを押し下げると主クラッチレバーを放さなくてもクラッチが切れます。
再度クラッチを入れる場合は、一旦主クラッチレバーを放し、再度レバーを握り込みます。



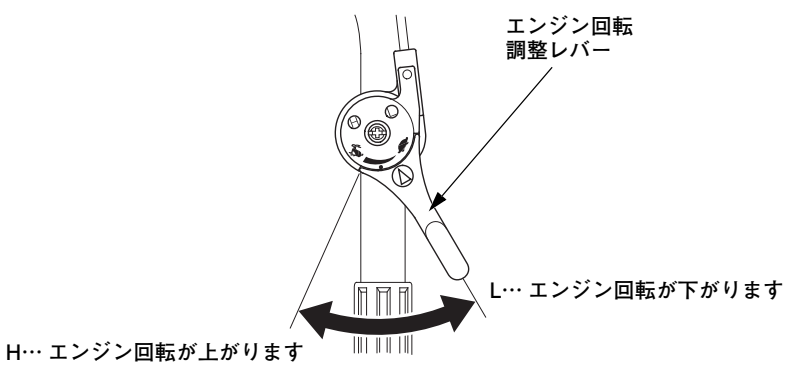
クラッチ切レバー

レバーを押すとクラッチが切れて、動力が切れます。
主クラッチレバーを握った状態で、クラッチ切レバーを操作すると手元クラッチ切レバーは “**切**” の位置になり、主クラッチレバーを放さなくてもクラッチが切れます。
再度クラッチを入れる場合は、一旦主クラッチレバーを放し、再度レバーを握り込みます。



エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて設定してください。



旋回

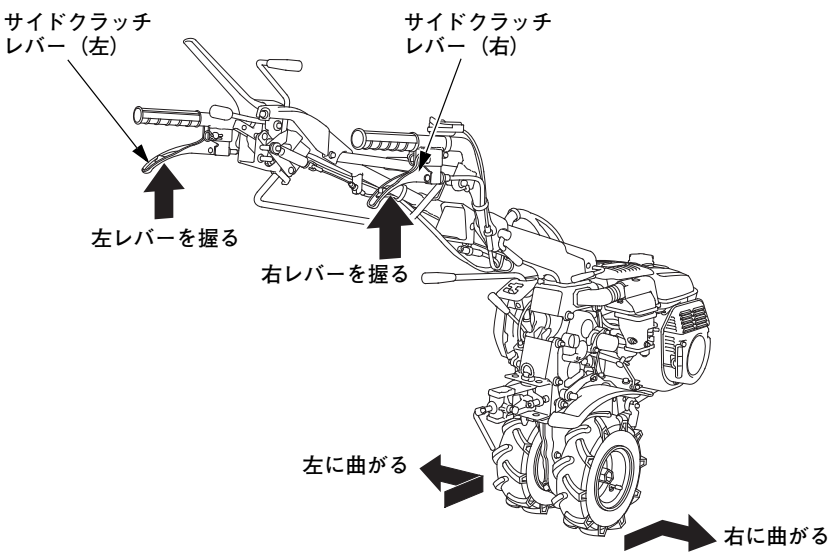
サイドクラッチレバー

⚠警告

- 高速運転時、サイドクラッチレバーを操作しないでください。
  高速時操作すると、本機が急旋回し走行が不安定となり、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 登り坂、下り坂ではサイドクラッチレバーを操作しないでください。
  登り坂、下り坂でサイドクラッチレバーを操作すると思いがけない方向に急旋回したりし、事故、ケガ、本機の故障をまねくおそれがあります。

旋回しようとする方向のレバーを握ると旋回します。

- 右のレバーを握る … 右に曲がります。
- 左のレバーを握る … 左に曲がります。

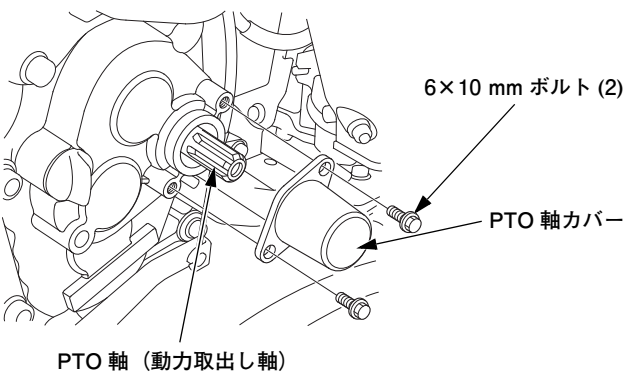


動力取出し

⚠警告
エンジンスイッチを “ 停止 ” にし、エンジンを必ず停止してから行ってください。

PTO 軸（動力取出し軸）の使いかた

動力は、ミッションケース右側の PTO 軸より取出します。
1. 6×10 mm ボルト２本を外し、PTO 軸カバーを取外します。
2. プーリを取付け、ボルトで締付けます。

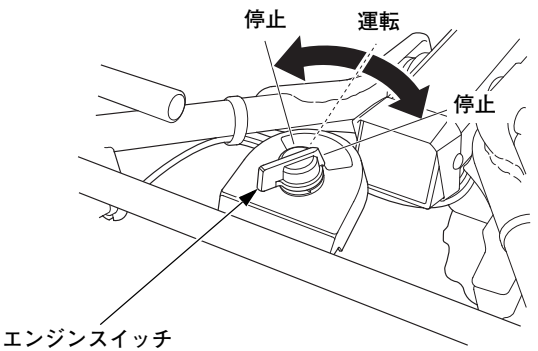


⚠警告
- PTO 軸カバーは、PTO 軸を使わないときは常に取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きついたりし、ケガをするおそれがあります。
- 本機のスタンドを立て、傾かないようしっかりと固定してください。
- 変速レバーを “ 中立 ” にしてください。“ 中立 ” にしないと本機が動き出し、ケガをするおそれがあります。

エンジンのとめかた

緊急停止の場合

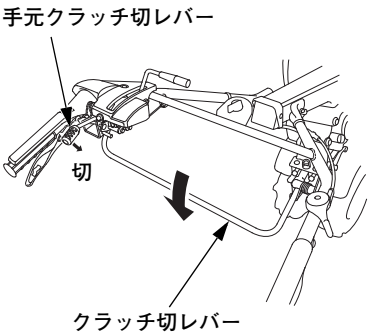
エンジンスイッチを “**停止**” に合わせます。

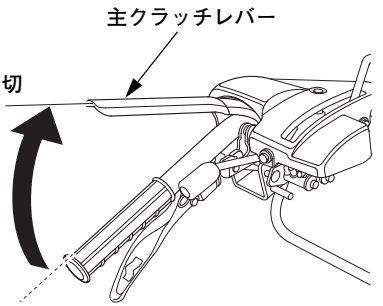


エンジンスイッチを使用して緊急停止をさせた場合は、再び始動させる前に、エンジン回転調整レバーを “**L**” の位置に戻して、変速レバーを “**中立**” にしてください。

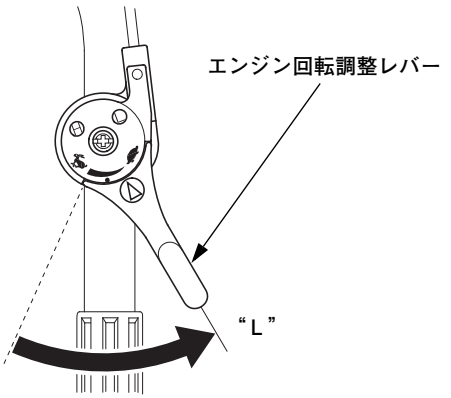
通常停止の方法

1. 手元クラッチ切レバー（クラッチ切レバーを押す）、主クラッチレバーを “**切**” にします。

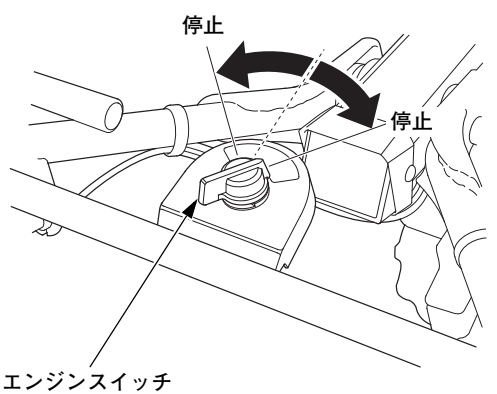




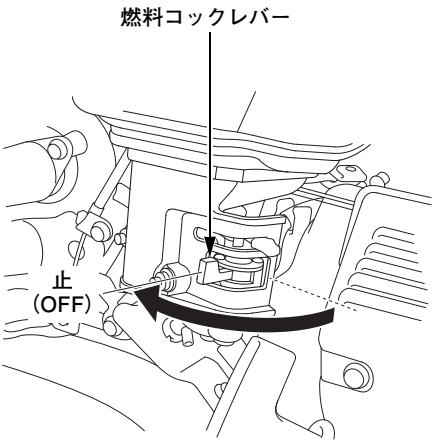
2. エンジン回転調整レバーを “L” の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



3. エンジンスイッチを “停止” に合わせます。



4. 燃料コックレバーを “止” （OFF）に合わせます。



定期手入れを行いましょう

定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時期（1）		稼働期前	作業前点検	1か月目または初回20時間運転目	3か月毎または50時間運転毎	6か月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検・補給		○					30
	交換	○		○		○		49
エアクリーナ	点検		○					31
	清掃				○ (2)			52
	交換						○	52
本機周り	点検		○					27
主クラッチレバーの作動	点検・清掃		○					27
	グリス塗布	○ (3) (5)						–
サイドクラッチレバーの作動	点検		○					43
手元クラッチレバーの作動	点検		○					41
クラッチ切レバーの作動	点検		○					42
レバー類の作動	点検		○					27
各部の締付	点検		○					27
配線、ケーブル類	点検		○					27
エンジンの始動、停止	点検		○					27
タイヤ空気圧	点検		○					32
泥水カバー	点検・清掃		○					33
燃料ろ過カップ	清掃					○		56
点火プラグ	点検・調整					○		54
	交換						○	54
エンジン回転調整ケーブル	清掃・調整						○	57
変速機オイル	点検	○					○	51
各部防錆、給油	塗布・給油	○						–
アイドル回転数	点検・調整						○ (3)	–
吸入・排気弁のすき間	点検・調整						○ (3)	–
燃焼室	清掃	500時間運転毎 (3) (6)						–
燃料タンクおよびフィルタ	清掃	○ (3)				○ (3)		–
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）(3)						–
主クラッチケーブル	点検・調整			○ (3)		○ (3)		–
サイドクラッチケーブル	調整			○		○		58
駐車ブレーキケーブル	調整						○	59
駆動ベルト	点検・調整			○ (3) (4)		○ (3) (4)		–

(1) 点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(2) ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(3) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げ販売店またはサービス店で実施してください。
(4) ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていない事を確認し、異常がある場合は交換してください。
(5) 長期間（30日以上）保管する場合は、錆防止のため潤滑剤（グリース）を主クラッチレバー周りの摺動部へ塗布してください。
(6) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告
点検、整備は平坦な場所でエンジンスイッチを “停止” にし、エンジンを必ず停止してから行ってください。

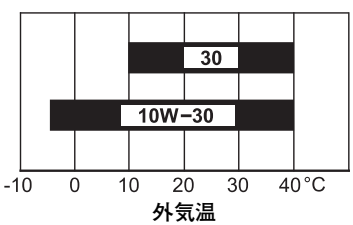
エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

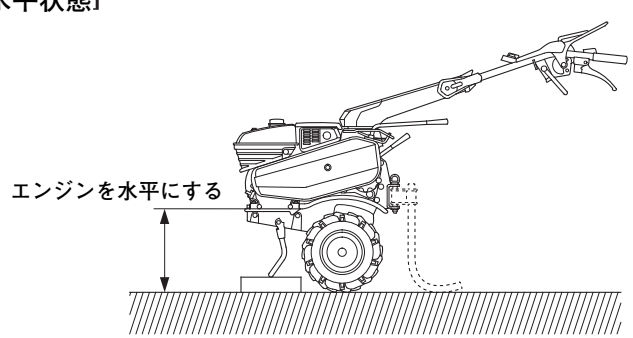
《推奨オイル》 Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）、または API 分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

《エンジンオイル量》 0.58 L

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

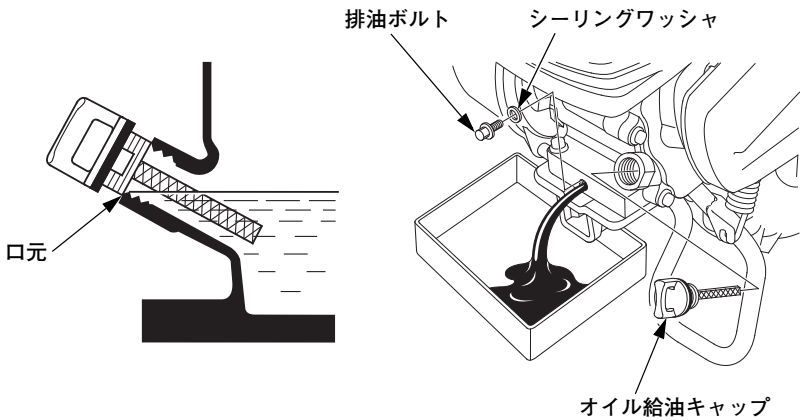


[水平状態]



《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリングワッシャを使用し、確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

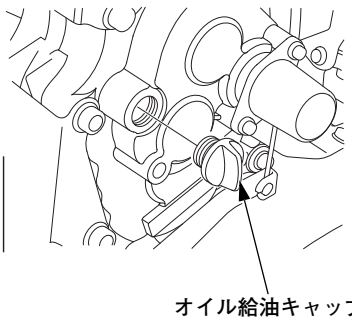
取扱いのポイント

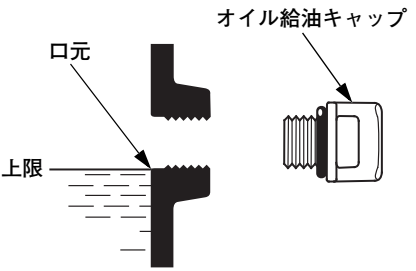
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
- 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

変速機オイルの点検

点検

- エンジンを水平（49 頁参照）にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。少ない場合は補給してください。
- 汚れを確認し、汚れがひどい場合は交換してください。
  交換はお買いあげ販売店へお申しつけください。





補給

《推奨オイル》 Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）、または API 分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

変速機オイル量：2.2 L

オイル給油キャップを外し、口元まで補給してください。
補給後、キャップは確実に締付けてください。

取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナ（空気清浄器）の清掃・交換

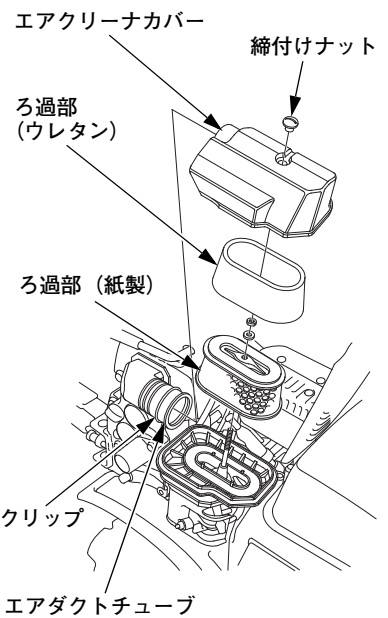
エアクリーナ（空気清浄器）が目詰まりをすると出力不足や、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

《清掃のしかた》

1. エンジンを停止し、ロックピンを90° 回しロックを解除して、メンテナンスカバーを開けます。（31 頁参照）
2. クリップを移動してエアクリーナカバーからエアダクトチューブを取外します。カバーやエアダクトチューブを損傷させないように注意してください。
3. 締付けナット、エアクリーナカバーを取外し、ろ過部（ウレタン・紙製）を取外します。
4. ろ過部（ウレタン）は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。



5. ろ過部（紙製）は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
6. ろ過部、エアダクトチューブ、エアクリーナカバーを確実に取付けます。
   エアダクトチューブはクリップで確実に固定してください。

取扱いのポイント

- **エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナカバーやろ過部（ウレタン）を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

点火プラグの点検・調整・交換

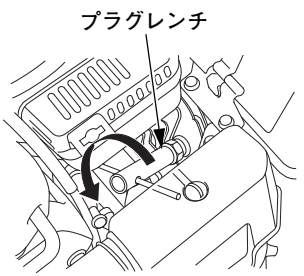
電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《清掃のしかた》

1. エンジンを停止し、ロックピンを 90° 回しロックを解除して、メンテナンスカバーを開けます。(31 頁参照)
2. 点火プラグキャップを取外します。
3. プラグレンチで点火プラグを取外します。
4. 点火プラグを清掃します。
   点火プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落としてください。



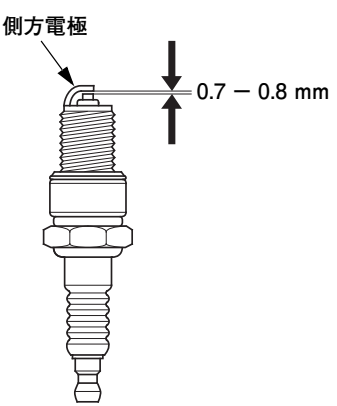
《調整のしかた》

側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間： 0.7 − 0.8 mm

《標準プラグ》

BPR5ES(NGK)、W16EPR-U(DENSO)



取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

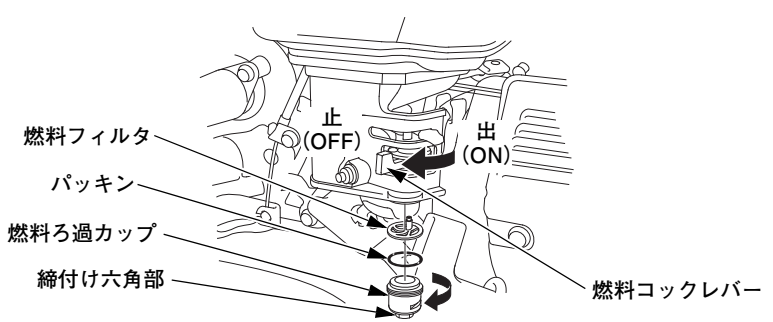
燃料ろ過カップ・フィルタの清掃

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- **火気を近づけないでください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **燃料ろ過カップの取付け後、漏れがないか点検してください。**
- **ガソリンが周りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしてからエンジンを始動してください。**

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

《清掃のしかた》
1. 燃料コックレバーを“止”（OFF）に合わせます。
2. 六角部を回してゆるめて燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料フィルタを取外します。
4. 燃料ろ過カップ、燃料フィルタを洗い油でよく洗いたまったゴミや水を取除きます。
5. 清掃後、燃料フィルタ、パッキンを元通りに取付け、燃料ろ過カップを取付けます。
   燃料ろ過カップは、六角部を回して確実に締付けてください。
6. 燃料コックレバーを“出”（ON）の位置にし燃料の漏れのないことを確認します。

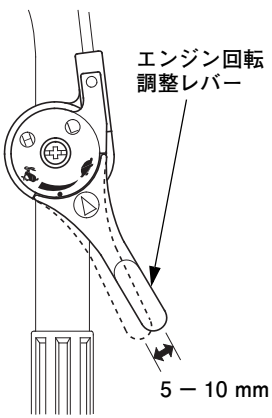


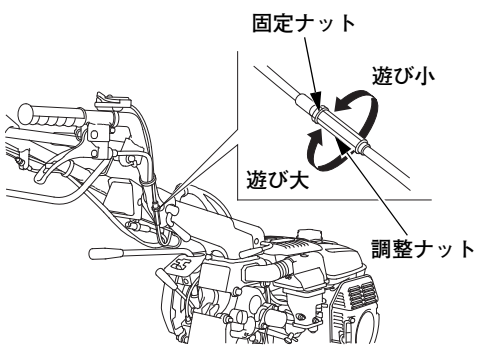
エンジン回転調整ケーブルの調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

《調整のしかた》

1. エンジン回転調整レバーを “L” の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：5 ー 10 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめ、調整ナットを回して行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



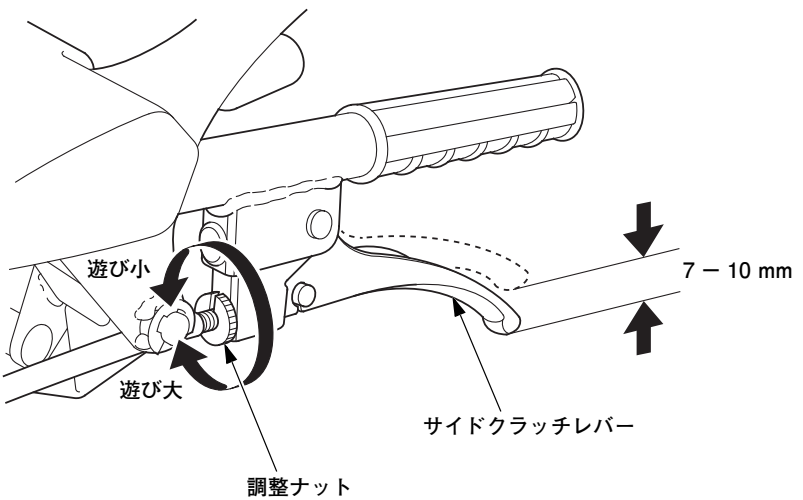


サイドクラッチケーブルの調整

サイドクラッチケーブルの調整が完全でないとサイドクラッチの切れが悪くなります。

《調整のしかた》

1. サイドクラッチレバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。左右とも同じ要領で調整してください。
   遊び：7 － 10 mm
2. 調整は、調整ナットを回して行います。

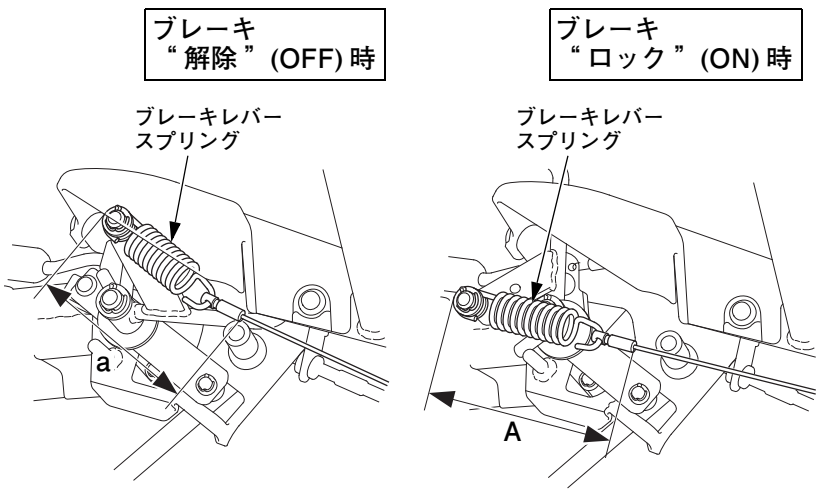


駐車ブレーキケーブルの調整

駐車ブレーキケーブルの調整が完全でないと、駐車ブレーキの効きが悪くなったりします。

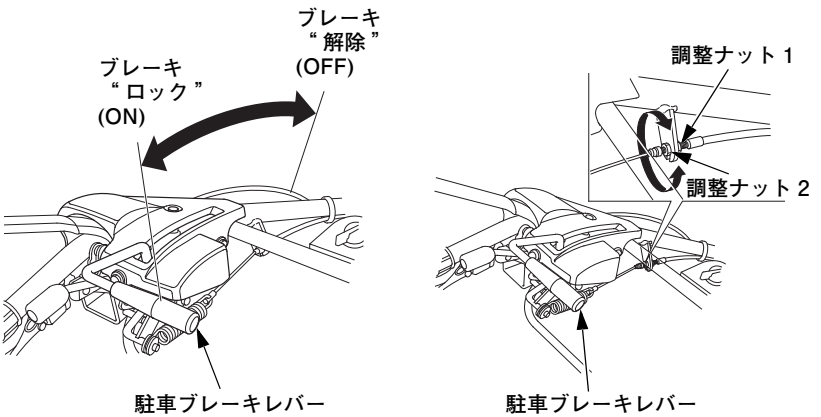
《調整のしかた》

1. エンジン停止状態で、主変速レバーを “1” の位置にします。
2. 駐車ブレーキレバーを操作し “ロック”（ON）と “解除”（OFF）の状態でブレーキレバースプリング長を測定します。



3. 駐車ブレーキレバーが “ロック”（ON）の状態で、ブレーキレバースプリングの伸びを 13 − 14 mm にします。
   (A − a) = 13 − 14 mm

調整は、調整ナット1、調整ナット2で行います。
・スプリングの伸びを増加させる場合：
　調整ナット2をゆるめ、調整ナット1を締める
・スプリングの伸びを減少させる場合：
　調整ナット1をゆるめ、調整ナット2を締める



4. 調整後は、調整ナットを確実に締付けてください。

5. 主変速レバーを “**中立**” にし、駐車ブレーキレバーを “**解除**”（OFF）から “**ロック**”（ON）にし、ブレーキの効き具合を確認してください。

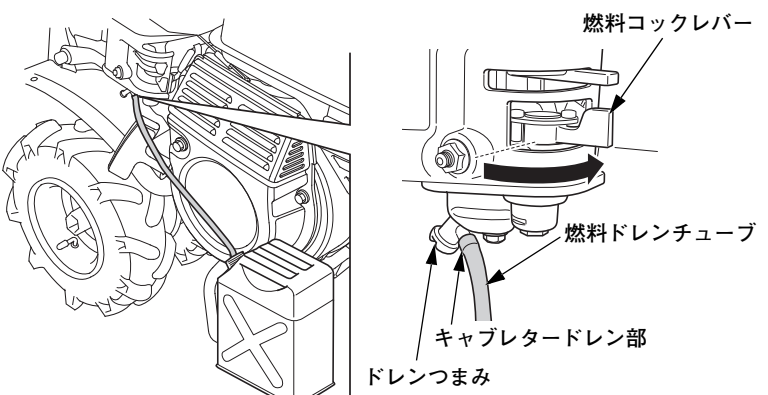
長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから取外します。

⚠警告
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**

1. 燃料タンク、キャブレータ内の燃料を下記の要領で抜きます。

《抜きかた》
1) 同梱部品の燃料ドレンチューブをキャブレタードレン部に取付けます。燃料は適切な容器で受けてください。
2) 燃料コックレバーを “出” (ON) にします。



3) キャブレータのドレンつまみ（燃料排出用つまみ）を 1 ～ 2 回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内の燃料を抜きます。燃料は適切な容器で受けてください。
4) 完全に燃料が抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
5) 燃料コックレバーを “止” （OFF）にします。
6) キャブレタードレン部に取付けた燃料ドレンチューブを取外します。
・取外した燃料ドレンチューブは、保管してください。

2. エアクリーナ（空気清浄器）を清掃します。（清掃方法は 52 頁参照）
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。（エンジンバルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。）
4. タイヤ空気圧を少し多くし〈137 ～ 147 kPa（1.4 ～ 1.5 kgf/cm^2）程度〉、湿気、ホコリの少ないところにスタンドを立てて保管します。

取扱いのポイント

本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（34 ～ 37 頁参照）
2. ガソリンはありますか？（29 頁参照）
3. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（54 頁参照）
   - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確めましょう

主クラッチ、サイドクラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう

1. サイドクラッチケーブルの調整方法が取扱説明書通りですか？（58 頁参照）
2. 主クラッチケーブルの調整が正しくない、または駆動ベルトがすべっている可能性があります。お買あげ販売店にお申しつけください。

主要諸元

名称		F530K1	
型式		ホンダ F530K	
区分		LH	LBH
機体寸法	全長	1,515 mm	1,545 mm
	全幅	600 mm	
	全高	945 mm	990 mm
	輪距	185 mm	445 mm
全装備質量		62 kg	68 kg
エンジン	名称	GX160H1	
	形式	空冷４ストローク単気筒	
	総排気量	163 cm^3	
	連続定格出力／回転速度	2.9 kW (3.9 PS)/3,600 rpm	
	最大出力／回転速度 (SAE J1349 *)	3.6 kW (4.9 PS)/3,600 rpm	
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量 (スタンド接地時)	2.1 L	2.0 L
	点火方式	トランジスタ式マグネト点火	
	始動方式	リコイルスタータ式	

※：ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 3,600 rpm (エンジン最大出力) で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

区分		LH	LBH
タイヤ		3.50 － 5	4.00 － 7
主クラッチ方式		ベルトテンション式	
変速段数	前進	6 段（副変速機使用）	
	後進	2 段（副変速機使用）	
PTO 回転速度（rpm）		低速：885.6、高速：1,776	
サイドクラッチ方式		ボール式	

諸元は予告なく変更することがあります。

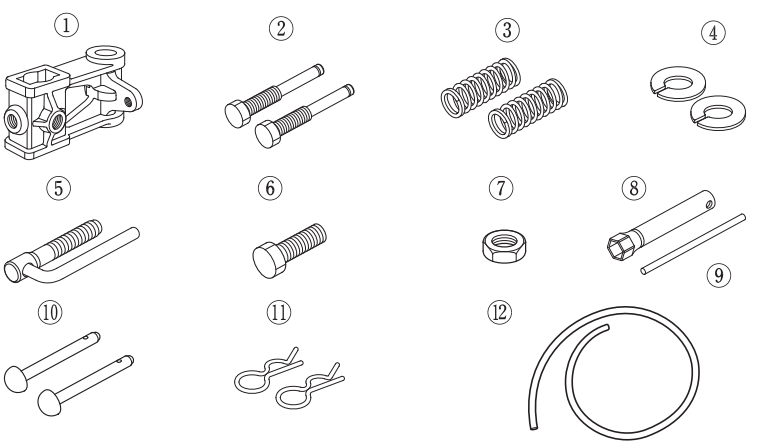
同梱部品の組付けかた

次の手順と要領で同梱部品を組立てて組付けてください。
梱包を開き、同梱部品を取出します。

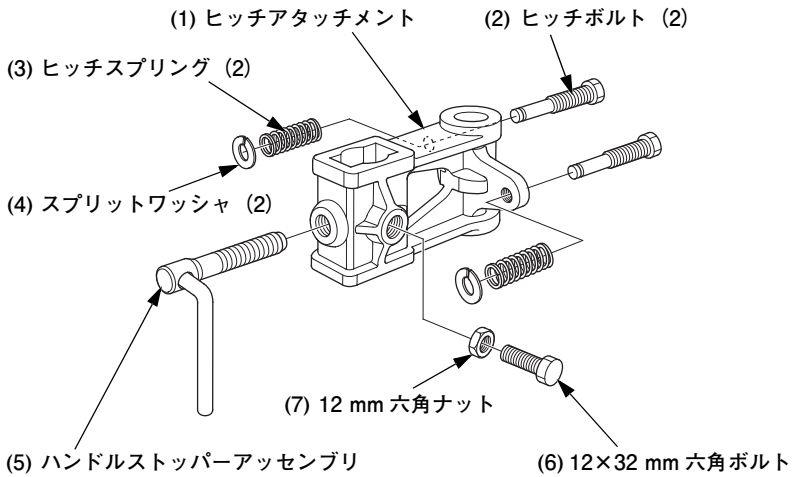
下記同梱部品リストで部品点数および損傷の有無を確認してください。

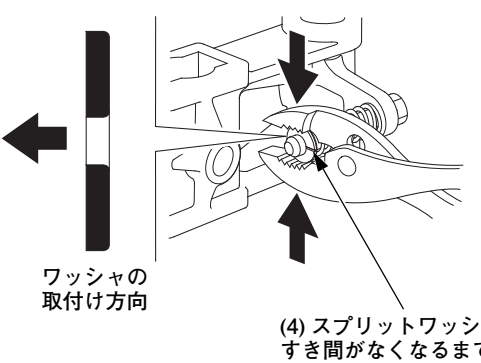
部品リスト

No.	部　品　名	個 数	備　考
(1)	ヒッチアタッチメント	1	ヒッチアタッチメントアッセンブリ用
(2)	ヒッチボルト	2	
(3)	ヒッチスプリング	2	
(4)	スプリットワッシャ	2	
(5)	ハンドルストッパーアッセンブリ	1	
(6)	12×32 mm 六角ボルト	1	
(7)	12 mm 六角ナット	1	
(8)	プラグレンチ	1	付属工具
(9)	プラグレンチハンドル	1	
(10)	保持ピン	2	ロータ用
(11)	固定ピン	2	
(12)	燃料ドレンチューブ	1	使用方法は 61 頁参照



《ヒッチアタッチメントアッセンブリの組立て》
ヒッチアタッチメントアッセンブリを下図を参照にして組立てます。
スプリットワッシャ2ヶはワッシャの切欠き部のすき間がなくなるまで、プライヤ等でつぶします。





メ　モ

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

**お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。**

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120 － 112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9:00 ～ 12:00　　13:00 ～ 17:00
〒 351-0188　埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

(1) 製品名、タイプ名
(2) ご購入年月日
(3) 販売店名
(4) フレーム号機 _____

この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後 9 年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた販売店**へお申しつけください。

HONDA

F530
30V34612
00X30-V34-6120



00X30V34 6120

FM
©2020 本田技研工業株式会社
Printed in Japan